令和８年度　第１回文化振興委員会　会議要旨

令和８年５月２６日（火）午後２時から
豊田市民文化会館　会議室 A

出席者（敬称略）

委　　員	清水裕之（委員）、小出充訓（副委員）、畔柳隆二、新原浩美、半田将仁、 物部浩子
オブザーバー	豊田彬子（理事長）、藤本聡（専務理事）
事　務　局	猿谷直記（文化部長） 文化事業課　　市民文化会館 原田秀樹（課長）、加藤祐二（副主幹）　　山下明男（所長）、梅村陽子（副所長）

■議事次第

1　あいさつ及び会の成立
（１）理事長あいさつ

（２）委員長あいさつ

（３）会の成立
事務局から、委員６人中６人の出席があり、本委員会の成立が報告された。

2　前回の委員会
（１）会議録の確認
・令和７年度　第３回文化振興委員会　会議録
議事録の内容に関する意見・異論があれば事務局に連絡いただく。

3　報告事項
（１）令和７年度事業視察について

①とよた演劇ファクトリー（文化事業課）

委員　　昨年度も拝見していたが、意欲を持っている方が参加され、エネルギーをすごく感じた。パンフレットの中にファクトリーの歴史も記載されており、この辺りを PR に活かせられたらよいのではないかと思う。体験者の成功例を表に出していくことで、より事業として認知してもらえるのではないかと思った。
委員　　公演時に次年度の受講生募集などは行っているのか。
事務局　募集自体は４月からになるが募集の告知を挟み込みで行っている。
委員　　参加者は豊田市内在住の人か。周辺からも来ているのか。
事務局　名古屋からも参加している。市内だけではなかなか集まらないのでチラシは県内の公共

施設に PR している。
委員　　どのくらい広がりがあるか聞きたかった。
委員　　広がりについても目に見えるようにするとよいのではないか。

②文化な日（文化事業課）

委員　　大きなイベント（WE LOVE とよたフェスタ）と一緒に実施していたが、国際交流を感じられるような様々な国のブースがあり、また同じフロアーで三味線や大正琴の体験もあり、多文化交流・共生の場になっていたのではないか。過去 2 回と比べても今回はすごく感じた。ただ、メインホールは WE LOVE とよたフェスタで、奥まった方で文化な日が行っていたので、来場者には場所として少しわかりにくかったのではないだろうか。今回、違うイベントとコラボすることによって新しい層の取り込みが考えられたので、誘導する仕掛けがあったらよかったのではないか、そして誘導のためにスタンプラリーなどを行っていたが、ステージ発表や屋外で PR してもよかったのではないか。メインホールでの内容と比べると地味に感じてしまうので、一歩二歩踏み込んで、WE LOVE とよたフェスタと一緒にできればよいのではないかと思う。
委員　　5,000 人は全体の人数か。文化な日そのものに来た人数は何人か。
事務局　5,000 人は全体数、文化な日への来場者は 2,104 人。実施前から懸念していたが、サブホールへの回遊は難しかった。やはり来場者はメインホールを回遊した後にサブホールに行くため苦戦した。スタンプラリーで会場を回ってもらうようにしたが、それだけでは足りなかったと感じたので、今後の課題とする。
委員　　メインホールとサブアリーナは分離されてしまうような作りなのか。
事務局　併設されているが、離れたようになってしまう。
委員　　駐車場から入り口を入ると目の前にメインのホールがあるため、どうしてもそちらに行ってしまう。
委員　　参加団体はどのように募ったのか。
事務局　基本的には文化団体協議会を通じて募集した。
委員　　つながリビングで出演している団体は、文化団体協議会に加入していないのか。
事務局　加入している・加入していない、両方の団体がある。
委員　　文化団体に入ってない人にも声かけてみてもよいのではないか。
事務局　考えてみます。

③とよた演劇祭（文化事業課）

委員　　予算は 20 万円と、かなり抑えられていた。会場は農村舞台で都市部ではなく、車で移動しなければ観ることができない場所であった。キャパシティは 50 人程度であったが、来場者は 20 名程度。気温が少し寒く長時間であったため、体力のいる観劇であった。豊田の歴史的資源を活用し現代の市民演劇を融合させ実施したのはよかったのではないか。私自身、歴史的な文化資産と出会えてよかったと思っている。焚火やこたつが用意されなんとか観劇できる環境を作っていたが、とにかく寒かった。5 月の時期など暖かい季節に実施した方がよいのではないかと思った。20 分 4 作品のプログラムと幕間 3 作品の計 7 作品であったが、寒い中での 7 作品はシニアの方にはかなりハードルが高かったのではないか。ただし、主催の方のサービス精神は伝わってきた。事業自体を 20 万円でよく実施出来たなと思うが、財団としては広報・協力程度だったのか。
事務局　そうです。

委員　　実行委員が持ち出しで行ってるのか。
事務局　一応、差し引きゼロとは聞いている。
委員　　演劇アカデミー・ファクトリーで学んだことを発表する場としての演劇祭だったと思うが、これで終了した後に今後の道筋などはできているのか。
事務局　地元に演劇協会というものがあり、代表の石黒さん（演出家）といろいろ相談している。今後は財団からの意向が出過ぎず、のびのびと主体的にやってもらえる環境を考慮しながら進めていきたい。また石黒さんとしても、次の世代に引っ張っていってほしいと考えている。
委員　　演劇祭はいったん休止ということか。
事務局　やりたい人もいると思うので、一旦は休止とする。うまくバトンタッチできればまた再開されるかもしれない。
委員　　20 名程度の来場者ということであったが、年齢層やどういった方が多かったのか。
委員　　おそらく関係者が多かったと見受けられた。
事務局　会場までここから車で 45 分程度かかる距離があり街灯もないようなところであるため「どこに連れて行かれるんだろう」と思ってしまうような場所である。
委員　　バスで送迎するなどの考えはなかったか。
事務局　案はあったが、経費の面で断念した。
委員　　予算が限られていることが休止の一番の理由か。
事務局　財団は支援的な立場であるため、支援しすぎてしまうと自主性が失われてしまうことがあり、バランスが難しいと思っている。金銭的支援というよりも物的支援や会場調整の関係で協力している傾向がある。
委員　　自分たちで公演を行うことは大変であるため、プロが行う部分（音響・照明）などは支援できるとよいと思う。
事務局　令和 6 年度では、市がかつて管理していた公共施設を使って公演を行ったが、その借用について財団が間に入って調整した。そういった要望があれば、今後も対応はできると思う。
委員　　自分たちの発表の場では、目的がとても閉じたものになり公益性が限られてしまうので、社会的な成果（例：子ども食堂で演劇 WS を行い人と人との繋がりを作る）を目指して行うと寄付の意義も出てくるし、自分たちの発表の披露ではなく演劇スキルやパフォーマンスが社会に活かされているという仕組みを作ると、公益性が高まるのではないか。
委員　　委員と演劇関係者の懇談会を企画してもよいのではないか。
事務局　検討してみます。

④豊田市民会館 50 周年記念事業（文化事業課、市民文化会館）

委員　　9 時過ぎには駐車場が満車だった。普段見かけない子連れの来場者が多かった。実際にはコナンの宝探しに魅力を感じて来場しているようだった。実際に来場した方はどのような感想を持ったか知りたいと思った。プロジェクションマッピングを拝見したが、少し寂しかった。会場全体でにぎやかで、今までにない賑わいがあった。50 周年記念で 1 日だけと言わず、時々実施した方がよいのではないかと思った。コスト的に厳しいと思うが。
委員　　10 時頃に伺ったが、駐車場が満車で美術館の駐車場も満車ですごく盛況であった。コナンの宝探しは 11 時には受付が終了していたので、これを目当てに来られた方は残念だったかもしれない。C + walk の試乗体験もあったが、50 人以上が並んでいた。キッチンカーもたくさん出店していたが何があるか分からなかったため、一覧表みたいなものがあってもよかったのではないかと思う。会場のあちこちにバルーンアートが飾ってあり、来場

した人が眺めていたりして、華やかな雰囲気になっていた。会場の中でバルーンアートを作成できるブースがあったが、12 時～13 時は休憩時間のため誰もおらず作成できなかった。その時間に来た来場者は悲しそうだったので、誰かが残るといった対応をしてもよかったのではないかと思う。豊田西高校美術部による階段装飾は、地域創生の１つとしてよいのではないかと思った。1 日限りだともったいないので、1 年を通じて実施してもよいのではないかと思う。最終的には何人くらいの来場者があったのか。

事務局　　5,600 人の来場者があった。

事務局　　文化会館 50 周年は 1 日限りのテーマパークということで、普段文化会館に来ることない方に来てもらうということを考えていた。コナンの宝探しについてはどのくらい申し込みがあるか未知数であったためいくつ発注するか迷ったが、あまり多く用意しすぎると謎解きの場所が渋滞してしまうことも考えられたので、結果的には 500 セットの準備でよかったと思っている。

委員　　普段来場されない方が来たことはよかったと思うが、そこをうまくつなげるような仕掛けを考えてほしい。

（２）令和７年度事業報告について

・文化事業課事業報告について、事務局から説明する。

委員　　カレントの紙発行を廃止すると記載があるか、結果的には廃止しなかったのか。

事務局　　はい、廃止した方がよいという意見もあったが、ターゲット層（高齢者）などを考え残すことにした。

委員　　配布部数が 5,000 となっているが、どこに配布しているのか。

事務局　　公共施設や財団の会員に配布している。

事務局　　文化会館と文化事業課の事業ラインアップチラシを作成した。視覚的にも良い物が出来た。

委員　　館内でも拡大して掲示してあって、良いと思いました。

委員　　申し込み時期の記載がないが。

事務局　　作成時は未確定の情報が多かったため、確定している情報のみを掲載した。

委員　　情報をどこまで載せるかは重要で、愛知県芸術劇場は「何月何日時点での情報です」、と掲載するようにしている。

委員　　発売時期でも記載があれば分かりやすいのではないか。

事務局　　参考にさせていただく。

・市民文化会館事業報告について、事務局から説明する。

委員　　さまざまな事業を中止しているが、曲がり角にあるのか。

事務局　　あると思う。

委員　　次の新たな方向性は出ているのか。

事務局　　まだそこまで考えられていない。

委員　　お困りごと相談は、具体的にどのような相談があるのか。

事務局　　具体的には舞台を使うにあたって、プロジェクターを使用する場合どのように映るのか、マイクで話す際にちゃんと話せるのか、などの相談に対しお答えしている。通常の下見では映写や音響確認はできないため、お困りごと相談に申し込んでいただくと、無料で疑問や不安を解消できるようになっている。

委員　　窓口相談と施設を押さえて利用することの中間くらいなイメージなのか。また、実際に相

談して利用者の反応はどうだったか。
事務局　アンケートは記載してもらっていないが、相談終了後に「すっきりした」・「納得できた」という生の声をいただいた。
委員　これによって貸館の利用率の UP に繋がればよいと思う。
委員　1 年に 30 組相談に来たということか。
事務局　はい。1 月に 1 回実施しており月によってばらつきはあるが、年間での件数になる。

（3）令和 8 年度事業計画について

・文化事業課事業計画について、事務局から説明する。
・市民文化会館事業計画について、事務局から説明する。
委員　全体の予算は昨年度と比べて減っているか。
事務局　事業課は大きくは変わっていないが、中止事業が多くの予算を持っていたため減ってはいる。
委員　中止になった代わりに、目玉になるような事業は考えているのか。
事務局　自主事業では農村舞台アートプロジェクトの代わりに食文化を新たに企画した。とよた芸術祭は「とよたデカスプロジェクト」・「市民アートプロジェクト」・「農村舞台アートプロジェクト」を統合し新たなものを創り上げる企画を計画している。予算は準備段階のため、財団ではなく豊田市に付いている。
事務局　文化会館は大きく変わった印象はない。
委員　廃止が多いように思えるが、廃止が多いと職員の気持ちが萎縮してしまうように感じるので、今後新しい事業を実施するという意欲につなげてもらいたい。50 周年事業のような楽しい企画を考えてもらいたい。
委員　豊田市民美術展は主催が豊田市から財団に代わるのか。
事務局　豊田市と一緒にやっていく。形式も変わらない。
委員　つながリビングは何年か実施しているが、利用率が上がってきているのか。また目標などはあるのか。
事務局　特に設定はしていないが回数は増やしたいと思っている。朗読などの企画は人数が少なく寂しくなってきているので、今後について職員内で話し合いを行っている。また目標ではないが、「つながリビングを使いたい」と思ってもらえるリピーターを増やしたいと考えている。
委員　つながリビングは、市民の「とりあえず楽しい事をやってみる」という思いにうってつけだと思う。
委員　朗読が減っているのは、リピーターが減ったということか。
事務局　出演者も疲れてきているし、来場者も減っている。
委員　来場者の開拓も必要だと思う。つながリビングに潜在的なニーズはあると思う。

4　協議事項
（1）事業視察について
視察事業（案）の確認。1 委員につき 3 件程度を考えている。今後、随時調整していく。

5　その他

次回の委員会

９月１５日（火）午前 10 時から